

## 第6回チャンピオン・メイヤー・ミーティング 仙台市長発言

### ラウンドテーブル1：テーマ「都市における生活費高騰の流れを変える」

長引くコロナ禍に加え、原油価格や物価が高騰し、低所得者層、ひとり親世帯、障害のある方などが、特に大きな影響を受けてきました。

この間、本市では、国からの交付金を活用するなどしながら、深刻な影響を受けている低所得者向けの数次にわたる現金支給を実施しております。その他にも、低所得層の子どもたちへ食事を提供する団体への食糧費助成を増額、障害者や高齢者、保護者がいない児童等を対象とした各種福祉施設向けに食材料費・光熱費の上昇相当分を助成、生活に困窮し住まいを失った方に対する個室型シェルターの提供など様々な対策を講じており、今後もこれらを継続してまいります。

あわせて、物価・原油価格高騰が、広く市民生活に影響しないよう、地域の雇用や流通を支える地元中小企業や、バス・タクシー事業者に対する財政的支援を継続していきます。

更に、市民の心のケアにも注力していく必要があります。本市では、様々な民間支援団体との意見交換等を踏まえ、子ども・若者にかかるワンストップ相談窓口の新たな整備や、困難を抱える女性へのアウトリーチ型相談支援事業などに重点的に取り組んでいるところで

### ラウンドテーブル2：テーマ「都市の全ての人に住宅を与えるための新しい道筋」

私からは、2011年に発生した東日本大震災における大規模な住宅再建が、皆様の参考になる部分があると感じたので紹介いたします。未曾有の被害となった東日本大震災では、市内の建物約30,000棟が全壊し、多くの方が住まいを失いました。また、近隣の被災県からの避難者も増えたことから、本市では住宅の確保が喫緊の課題となりました。

これに対応するため、国の全面支援の下、震災直後に、プレハブ仮設住宅を建設するとともに、民間や公営の賃貸住宅の借り上げにより、総数約11,000戸を確保いたしました。

また、本格的な住宅再建に向けては、被災者向けの公営住宅約3,200戸を整備しました。この整備にあたっては、数次にわたり被災者の希望を丁寧に聞き取り、コミュニティ単位の入居、ペット同伴等、きめ細やかな対応を心がけてまいりました。

東日本大震災から立ち上がることができたのは、世界中からの温かい支援や励ましの声のお陰であると感じています。仙台・東北を代表し、改めて皆様に感謝申し上げます。

また、本市では、若年層や子育て世帯における住宅取得の支援を目的とした助成事業も実施しており、今後も継続していくこととしています。